

やまがたの若者向け地域活動情報紙

若者向けの元気応援窓口
若者支援コンシェルジュ

WA-CHA

わちゃ

Vol.5

2025 年 2 月 発行

挑戦できる場所

私にとって山形は

取材

山形の「何もない」を覆せ！ 学生による学生のための情報メディア

やまがた学生情報局

若者サポーターからの寄稿

「災害支援の専門家からあなたへ 山形の災害事情と若者の力」

ウェザーハート災害福祉事務所 千川原 公彦 氏

- 地域活動をする仲間を見つけよう！ ～地域活動交流会のご紹介～
- 山形いまどき若者アンケート 2024 集計結果発表！
- 若者支援コンシェルジュって？ ○ 若者サポーター活躍中！

山形
＝「なんでもできる」
「挑戦できる」場所

山形の「何もない」を覆せ！

代表
齋喜 祥吾 さん
山形大学工学部 3 年生
山梨県出身。

福田 彩美 さん
東北芸術工科大学 2 年生
福島県出身。

やまがた学生情報局は、さまざまな高校・大学の学生が集まり、学生視点で山形を楽しむための情報や、コラム記事を発信しているグループです。今回は、やまがた学生情報局の活動と想いを、代表の齋喜祥吾さんとメンバーの福田彩美さんに伺いました。

やまがた学生情報局とは？

齋喜 メインの活動は記事の執筆です。スローガンは、「山形の学生生活をちょっと面白くする」。記事以外にも SNS の運用をしています。インスタグラムの「やまじょー」（やまがた学生情報局の略）の公式アカウントと、グルメアカウント「山形学生グルメ」、それからやまじょーX の 3 つです。

福田 SNS では投票などを活用して、読みたい記事、困っている事、おすめのカフェなどをフォローに問いかけて、情報を集めることもあります。

齋喜 現在は高校生から太学生までの 7 名で活動しています。それからたまに OB の方が記事を書いてくれることもあります。団体のコンセプトは「WHY・WHAT・HOW」。WHY（なぜ）＝学生たちが山形での暮らしを楽しくしてもらいたい。WHAT（なにを）＝役立つ情報を提供する。HOW（どのように）＝正直に、友達感覚でタイムリーに。これを軸に記事や SNS を作っていくように徹底しています。特に HOW の「どのように情報を提供するか」に気を付けていて、ほかのメディアとの差別化も意識しています。友達と話しているような感覚の記事でありたいです。

山形の学生に足りないこと

齋喜 ワクワクした気持ちが必要だと思います。在学中に山形県が急に大都会になるということはないじゃないですか。だから、限られた環境でどれだけ楽しめるか、山形の良いところを見つけれられるか。ワクワクした視点で生活するともっと若者世代が盛り上がると思います。そういう視点をやまじょーで助けたいです。

活動を始めたきっかけ

福田 私は 2024 年の夏に入りました。きっかけはすでにメンバーだった同級生の影響です。私自身、地域系の学科を専攻しているのですが、地域にかりたいという想いはあったのですが、ハードルが高いなと思っていました。でもやまじょーなら仲間がいてすごく入りやすかったです。また、SNS 運用に興味があり、インスタグラムや X での発信や企画を高校生の頃からして、続けていきたいという想いもありました。

齋喜 私は一年生の時です。きっかけは 2 つあります。ひとつは、大学入学を機に個人での情報発信をしてみたいと思っていたこと。もうひとつは、出身地である山梨県から、せっかく山形県まで来たので、山形のことを知りたいと思っていたこと。この 2 つの想いを持っている時に、インスタグラムで見つけたのがやまじょーのメンバー募集でした。「これだ！」と思って、勇気をもって応募しました。

福田 私もやまじょーを知ったきっかけはインスタグラムでしたね。飲食店情報とかよく見て。学生の間では結構有名じゃないかな。

福田 私としては、ほかの大学の学生や高校生とかかわる機会が少ないなと思います。なにか、もっとつながりが感じられる場所があったらいいですね。

大変だなと感じることは？

齋喜 代表として運営をしているので、とにかく人手不足（笑）。これが一番の課題です。メンバー募集や説明会などを SNS で広報していますが、なかなか卒業との両立も難しく、続かないこともあって。やる気はあるけどできないという人もいて、もどかしいですね。

福田 やっぱ両立が大変ですね。卒業とアルバイトにプラスしてやまじょーとなる。

齋喜 僕は部活もしていることや、3 年生になって研究室が忙しかったというのもありますね。

でも、週に一度はオンラインで集まって、編集会議をしています。一人月一本は記事を出そう、というのを目標に頑張っています。本当はもっと増やしていきたいんですけどね。基本的に、メンバーそれぞれが企画・取材・執筆・サムネイル作成・記事掲載まですべて一人でしています。もちろん、入ってから研修やサポートはありますよ。

福田 研修は結構手厚かったです。3 回くらいオンラインでレクチャーしてくれて、ルールもまとめてあったので、活動が始めやすかったです。

活動してよかったこと

福田 私の知らない山形がいっぱいあるなと思いました。みんな「山形は何もない」「って言っているんですか。けど、そうかな？。って。私は福島県出身ですが、山形を魅力的に感じていたので、そう言われると疑問を感じていました。ただ、具体的に何が、と聞かれるとわからなくて（笑）。でも、やまじょーに入ってから、山形でも遊べるんだ」「おいしいところいっぱいあるんだ」というのに気付いて、山形の何もないを覆せ！ という考え方になりました。

齋喜 やっぱ、山形について自分から知りに行くことができるので、ほかのみんなよりは山形を知ってるんじゃないかなと思いますね。それから、技術的なところ。記事を作るための企画力や文章力、それからサムネイルを作るためのデザイン力とか、そうしたスキルもついたし、パソコンにも強くなったかな。

福田 記事作成のツールを使えるようになったのは強いかも。将来いろんなところで役に立つスキルかな。

齋喜 ワードプレスやキャンバ、グーグルドライブなど、そうしたツールですね。

▼週に一度のミーティングでは、これからの企画を話し合います。





やまがた学生情報局

齋喜さん・福田さん CHOICE おすすめ記事

齋喜さん



【体育系】大学の部活はやらない方がいい？サークルとの違いは？それぞれのメリットデメリットを紹介

comment
これで悩む人が多いんじゃないかなと思って書いた記事。究極な2択だけど、どちらも経験した僕が伝えたいことを書きました。



【筆箱紹介】現役大学生5人の筆箱の中身を大公開！2024年版

comment
メンバーみんなで協力して書いた、思い入れのある記事です。

福田さん



サクランボの種は食べると死ぬってマジ？致死量は2粒！？本当かどうか調べてみた

comment
入る前に読んで、「こんな記事も書いていいんだ！」と感動しました。ちょっとした疑問を調べた記事も面白いですよ。



【2024年最新】あるあるお悩みを解決する山形土産5選を目的別にご紹介！

comment
地元へ帰るときのお土産に迷っていた経験から、部活や友達向けなど、シーンに合わせたお土産のおすすめを書いた記事です。



新規メンバー募集中！



こんな人におすすめ！

- ★ チェレンジしたい人
- ★ 何かに熱中したい人
- ★ 山形をもっと知りたい人
- ★ 目的をもって活動できる人

Instagram



やまがた学生情報局
公式
@yamagata.stu



やまがた学生グルメ
/ 山形グルメ
@yamajo.gurume

X



やまがた学生情報局公式
@y_stu_info

WEB サイト



やまがた学生情報局
<https://live-yamagata.jp/>

学生だからこでできること

福田 私は芸工大のコミュニティデザイン学科に属しているので、そのブランドの力はあると思います。学生は、学校にも地域にも守られているので、そういうところが強味かなと。

齋喜 時間があるので、興味を持ったことや思いついたアイデアにすぐ取り掛かれる、すぐチャレンジできるというのがあります。結構すぐ動いちゃっタイプなので。

福田 やまじょも学生じゃなかったら注目されてなかったんじゃないかなとは思いますがね。学生が学生のためっていうのが珍しいのになって。学生って今しか言えないですから。

見つけた山形の魅力

福田 私はなんでもできる場所だなと思います。都会だと人が多すぎる（笑）。山形は人があたたかいし、人口も多くないので、やってみたいと思ったことを挑戦できる場所だと思っています。実際に、人とかかわること活動が広がっていった経験もあって、動けば響く環境じゃないかな。

齋喜 まずラーメンがおいしい（笑）。どへ行ってもおいしくってすばらしいです。

山梨は関東のこってり系が多いんですけど、山形はバリエーション豊かで、あっさりしているのも多いですし。日本一ラーメン食べただけあるなって。

福田 山形のいいところは、ラーメンの好みの話題で盛り上げられちゃうところ（笑）。あと芋煮とか、食の話題が多くて楽しいです。

これから

福田 やまじょを学生だけでなくいろんな地域の人が見てくれて、見た人が山形のことを好きになってくれたらいいなと思います。私はまだ福島県民として山形を見ていて、よそ者視点で見れているんです。だから、「よそ者からみたら山形って魅力的だよ」というのを記事を通して伝えられたいと思います。

齋喜 ビジョンとしては、もっと大きな組織になりたいです。欲を言えば、何十人もメンバーがいて、毎日記事が出ているのが理想ですね。山形の大学生は県外出身者が多いんです。だから、いろんな視点から見た山形を発信してほしいし、学生ライフの記事など、もっとたくさん記事が出せると思います。

団体が大きくなったら、他県で似た活動をしている団体ともコラボレーションし

ていきたいという思いもあります。やまじょが中心となって、そういう団体がつながっていければと思いますね。地方大学に行った人が「良かったな」と思えるように。何も無いと言っているのは、地方はどこも一緒だと思うので。何年先になるかわからないですけど、理想です。

▼ 年に数回は全員で集まって交流します。写真は2024年の忘年会。



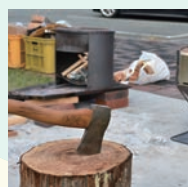
第2回地域活動交流会

身近な自然を楽しもう！地域活動交流芋煮会

芋煮会発祥の地と言われる中山町で、地域資源の見つけ方、その活用方法を聞く交流会を開催。FURUSATO の未来代表伊藤一之さんと、中山町総合政策課課長の神保勝也さんをゲストにお迎えしました。

芋煮のプロとキャンプのプロの指南を受けて

ゲストのお二人の指導のもと、参加者みんなで芋煮づくり。まずは材料を切るチームと火起こしをするチームに分かれて、調理スタートです。



神保さんが持ってきてくれた薪と斧で、火起こし用の薪割りから自分たちで行いました。斧を入れる場所など、コツをつかめば面白いように割れましたよ。子どもたちも見守られながら楽しんでいました。



まとめ記事



芋煮の歴史を聞きながら山形芋煮に舌鼓

調味料を加えて、具材が煮えたら芋煮の完成！

食べながらのトークでは、伊藤さんから400年にもなるという山形の芋煮の歴史のお話や、主催した「日本八大芋煮」のイベントの話、芋煮の味付けの変遷やレトルト商品「山形中山町北前いも煮」の貴重な商品開発秘話などを伺いました。焚火イベントを開催している神保さんからは、地域の自然を活かして新しい魅力を創出した河川敷活用のお話も。

炊きたての塩おにぎりと一緒に、みんなのおかわりが止まらず、メはお約束の芋煮カレーうどん。焼きマッシュマロや曳きたてコーヒの贅沢なデザートも頂いて満足な1日となりました。

第3回地域活動交流会

地元の魅力をデザインする



まとめ記事

「地元の魅力をデザインする」と題して、地域の魅力をどのように見つけたか、その魅力をどのように発信して活用しているのかについて話しました。ゲストは、元地域おこし協力隊で株式会社かねやま村代表取締役の浅野剛さんと、鮭川村地域おこし協力隊でイラストレーターの稲葉星蘭さんです。

カフェ経営を通してできた人との繋がり

浅野さんは南陽市の「くまきち農園」と、米沢市の「cafe mamenoki」の2店舗を運営中です。カフェを運営する中で、食材調達で地元の方と提携をしたり、果樹の栽培にチャレンジしたりと、たくさんの方と関わってきたといいます。そうしたつながりを大切に、お客さんと仲良くなれるのがカフェのいいところだと浅野さんはお話してくれました。

イラストの力で地域おこしと魅力再発見

稲葉さんは現役協力隊兼イラストレーター。主に「イラスト」の力で地域の魅力を表現しています。地元特産のきのこをテーマにしたイベント「きのこの森であいましょう」では、稲葉さんが描いたイラストがチラシやポスターとして使われました。あえて「マルシェ」という言葉を使わないのも工夫の一つだそうです。

実は持ってる「地元の魅力」

「あなたの地元のいいところを教えてください」

参加者に聞くと、みなさん地元のおすすめスポットや良いところを教えてくださいました。何もないと言われがち山形ですが、実はみなさん好きなのところをちゃんと持っているんだということを感じた交流会でした。



モチベーションを上げたいあなたへ！

地域活動をする仲間を見つけよう！

～地域活動交流会のご紹介～

若者支援コンシェルジュでは、地域で活動する若者向けの交流会を開催しています。令和6年度は計4回の交流会を開催しました。各回ゲストによるトークや、参加者同士の交流など、学びと出会いの場になっています。今号では、第1回～第3回の交流会の様子をご紹介します。



第1回地域活動交流会

経験者に聞く！地域食堂のはじめ方



2024年7月11日(木)、山形市男女共同参画センター「ファール」にて、「経験者に聞く！地域食堂のはじめかた」と題し、川西町こども食堂なかよしキッチンの佐藤千恵美さんから話を伺いました。



「やってみよう！」の思いで

佐藤さんがこども食堂を始めたきっかけは、こどもの過ごせる場所を自分たちで作ろうと思ったこと。お母さん仲間数名で活動を始め、現在まで続けています。食事はあえて誰でも簡単に作れるものにし、家庭でもまねできるように心がけています。食事会では毎回約80人前後の親子連れが集まるそうです。

広がりをもせる「こども食堂」

交流会では、実際にこども食堂や地域食堂を開きたい人、開く人をサポートしたい人、そして行政関係者など、幅広い立場の方が集まりました。やってみないと足を運んでくれた参加者の悩みや、今つまづいていること、不安なことなどをみんなで共有し、それぞれの持つ引き出しから意見を交換しました。近年広がりを見せるこども食堂が、もっと身近な場所になるように、今回のつながりを活かせることよいなと思いました。

まとめ記事

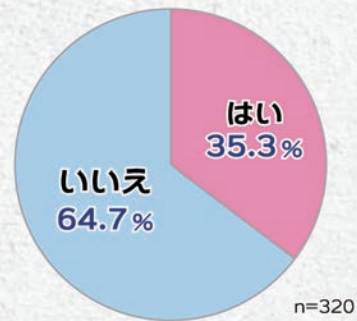


第4回地域活動交流会

私の『したい』を叶えるために～活動の広がりを生むアクション～

令和6年度最後の交流会は、スタートアップステーション・ジョージ山形とコラボレーションし、2025年2月6日に開催しました。在山形ベトナム人協会代表の笹原智子さんと、HAPPY LIFE 薬剤師の今井隆裕さんをゲストに迎え、会社員をしながら自分の「したい」を叶えたお二人の体験談などを伺いました。詳しい様子はおこしあいネットをご覧ください。

地域のための奉仕的な活動をしていますか？

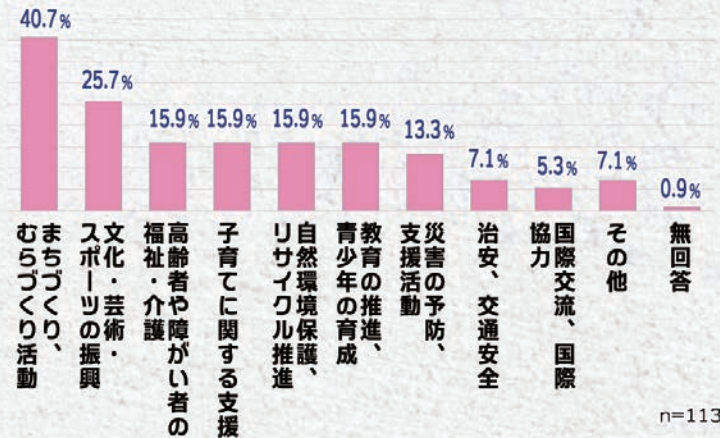


回答者のうち「地域活動をしている」と答えた割合は35.3%にとどまりました。行っている活動としては、「まちづくり、むらづくり活動」が最も多く、活動を通して得たものは「人とのつながり」が最も多く、次点で「地域とのつながり」となりました。あったら良いものは「気軽に集まれる場所」「金銭的な支援」が同列の55.9%で、場所とお金が課題のひとつになっていることがうかがえました。

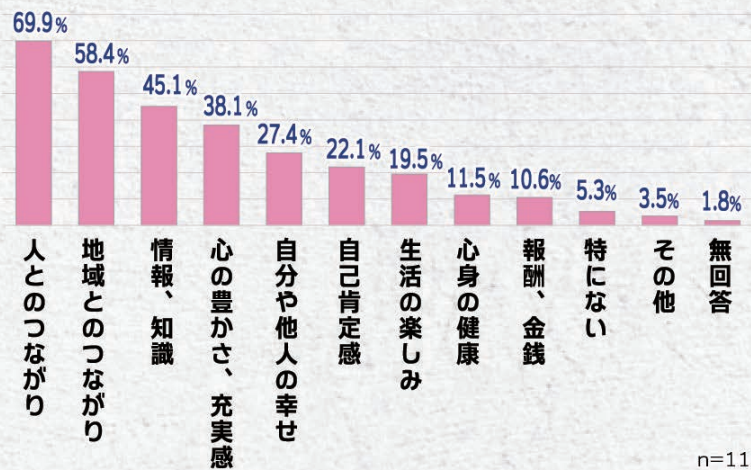


今回の「山形いまどき若者アンケート2024」の結果は、いかがでしたか？
このアンケートの結果は、記述式の回答もできるだけ省略せずにいただいた文言のまま掲載しています（記述回答の詳細はウェブサイトをご覧ください）。若者世代の皆様も、若者世代以外の皆様も、また若者支援に携わる関係機関や地域の皆様も、ぜひ「いまどきの若者の声」として受け止めていただき、これからの生活や事業に活かしていただければ幸いです。
ご協力くださいました皆様に、心より御礼を申し上げます。

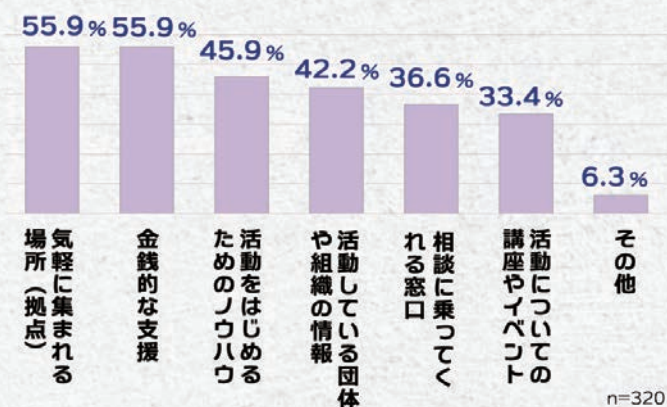
どんな活動？



活動を通して得たもの



活動したい時にあったら良いもの



結果発表

山形いまどき若者アンケート2024

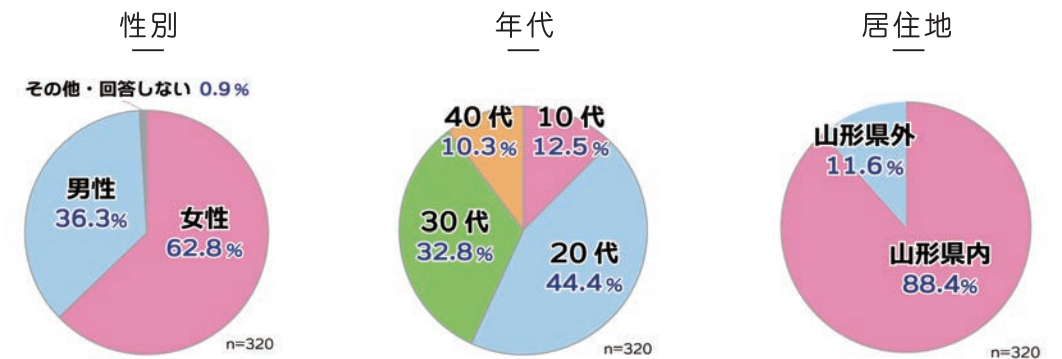


若者支援コンシェルジュでは、山形県に縁のある16歳～40歳位までの方を対象に、ウェブアンケートを実施しました。
（調査期間：令和6年8月10日～令和6年9月9日）
回答者数は、320人となり、さまざまな意見が寄せられました。
アンケート結果より、一部を抜粋して掲載します。

詳しい結果はこちらから

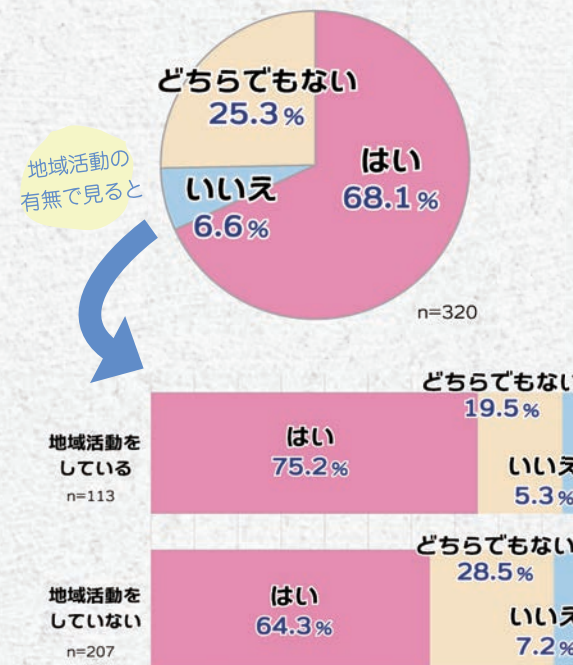


回答者の属性

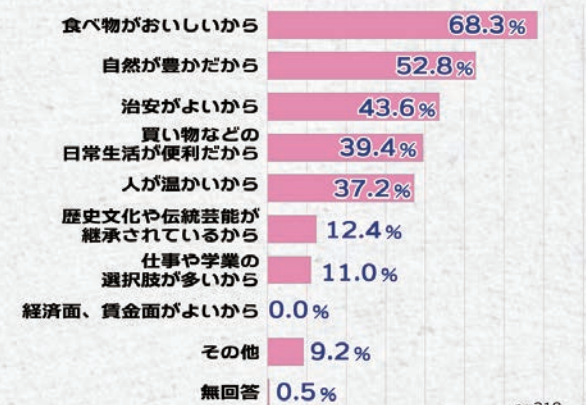


今住んでいる地域は好きですか？

※県外在住者を含む



好きな理由（県内在住者）



住んでいる地域が好きと回答した割合は68.1%と過半数を占めました。
県内在住者に山形県が好きと回答した理由を尋ねると、「食べ物がおいしい」「自然が豊か」「治安が良い」に回答が集まった一方、「買い物の便利さ」や「仕事や学業の選択肢」は割合が低く、課題も見える結果となりました。

若者向けの元気応援窓口

若者支援コンシェルジュ

山形県に在住または所縁のある若者の地域活動を応援する事業です。
一人でも多くの人と課題を共有することで、解決の糸口が見つかる可能性があります。

なんでも相談窓口

地域活動に関するご相談や、
お問い合わせを受け付けています！

◎ まずは話してみよう ☎ **080-4732-3804**
なんでも相談窓口（平日 9:00～19:00）

SNSからもOK！



若者サポーター

活動へのアドバイスや、技術的なサポート・レクチャーなど
「ちょっとだけ先輩」の若者サポーターがあなたを応援します。

実施期間 令和7年3月31日まで
(受付終了は3月10日)※予定数になり次第終了となります。

利用対象

- 山形県内で地域を元気にするための活動をしている
(これから始めようとする) **高校生～40歳位**の団体または個人
- 山形県内へ移住を検討している40歳位までの個人
- 山形県内の教育機関(サポート受益者が高校生～40歳位であること)

SUPPORT MENU

- ・団体・NPOの基盤整備、運営
 - ・パソコン活用
 - ・会計・経理
 - ・WEB活用
 - ・起業ノウハウ
 - ・イベントの企画・実施
 - ・広報、マスコミ周知
 - ・事業の企画、実施
 - ・その他
- メニューにない内容でもまずはご相談ください！

詳しくはこちら



- ご希望に応じて、みなさまのところへ「相談」または「お手伝い」としてお伺いします。
- 1回2時間、3回まで利用可能です。 ■相談料は頂きません。
- ご相談にはお申し込みが必要です。QRコードから指定のフォームでお申し込みください。

情報発信

地域活動に役立つ情報や、県内で活躍する若者の情報を発信中！
イベント情報や支援制度情報もあるよ！

若者支援
コンシェルジュ



イベント情報



各市町村の
支援制度情報



取材しました！



農家を継いでSNS発信→
フォロワー10万人超え！
米利休さんってどんな人？

農家／インスタグラマー 米利休さん



山形県の置賜地域で米農家を営む
家に生まれ、東京大学を卒業し、
廃業寸前の実家の農業を継いだ米
利休さんにインタビュー。



参加者それぞれがお気に入りの本を持
ち寄り、紹介し合う「読書会」。
そこでは初対面の人でも性別や年代関
係なく、1冊の本を通して熱を帯びた
会話や笑い、世間話などで不思議と盛
り上がるのです。

山形で、本を通してつながる
「人」と「場所」をつくる

山形読書会 寺崎 江里さん



若者支援コンシェルジュ事務局
〒990-0832 山形県山形市城西町5丁目29-19 (AISOHO 株式会社内)
TEL 080-4732-3804 (平日9～19時) FAX 023-673-0703
令和6年度若者支援コンシェルジュ事業(山形県しあわせ子育て応援部多様性・女性若者活躍課)

「能登半島地震クラス」の大地震が起きるかもしれない山形県

2024年の元日に発生した能登半島地震では、400名以上の命が失われました。
半数は地震や津波によるもの、そして半数はその後の過酷な避難生活中に亡くなった災害関連死でした。
山形は災害が少ないと言われていますが、実際はどうなのでしょう？
山形にも大地震の原因になる活断層が複数あります。国の方では山形の活断層を「危険度の高いSランク」に指定しており、犠牲者は最大で約2千人、避難者も20万人となる大地震になるだろうと言われています。実は、能登半島地震クラスの大地震がいつ起きてもおかしくないのが山形県の現状です。



▲ 能登半島地震・珠洲市にて被害調査を行う

自分の命を守る意識

加えて、2年に一度の頻度で、山形では洪水・土砂災害が発生しています。
いつ災害が起きても不思議ではない山形県ですから、「自分の命を守る意識」を高めることが大切です。

阪神・淡路大震災(1995年)では、犠牲となった0～40歳未満の内、一番多く亡くなったのは20代の若者でした。一人暮らしが多かったり、出費を抑えるために耐震の弱い建物で生活していた学生が多かったりしたこと等が原因だと言われています。

災害が起きる前に、地震に備えて「家具を固定」したり、洪水・土砂災害から命を守るために「ハザードマップで避難所を確認」したりすることが大切です。



▲ 東日本大震災・宮城県塩釜市の海岸にて清掃作業を行う高校生

災害時に必要とされている「若者の力」

そして、大きな災害が起きると、地域には「避難所」や「災害ボランティアセンター」が開設されます。

自宅で発生したガレキや汚泥の処理は、基本的に自力で行う「自己責任、自己完結」になっていますが、高齢者や障がい者の世帯でそれを行うことは無理に等しいものがあります。山形は高齢者も多く、県民の約35%が65歳以上です。そこで必要になってくるのが「若者の力」です。

一方で、国が公表した情報(12年、21年)では、ボランティアの年齢層を見ると、全国的に40代以上の参加が多く(年代毎にそれぞれ20%程度)、10～20代についてはそれぞれ15%に留まっており、まだまだ伸び代がある状況です。

避難所や災害ボランティアセンターでは人材不足に困っているケースが多いので、災害時、時間的な余裕があればボランティアとして参加してみたいかかでしょうか？

そのためには、災害で「死なない、ケガをしない」ことが大切です。若者の防災意識が高まることで、次のフェーズである「助け合い」「ひいては「一日も早い山形の復旧・復興」に繋がるものと思います。



ウェザーハート災害福祉事務所
ちがはら きみひこ
千川原 公彦 さん

山形県出身。秋田県在住時に、「日本海中部地震(1983, 秋田県)」を体験。「有珠山噴火災害(2000, 北海道)」を契機に、全国での災害支援活動に関わる。平時は、行政・社協・自治会・NPO等とともに防災訓練・災害研修等の企画など、社会福祉協議会・NPO・住民等と関わりながら、協働を重視した活動を心がけている。

千川原さんのお話をもっと聞きたいときは **若者サポーター** を利用できます

若者サポーターでは、さまざまな分野のスペシャリストや実践者に、お話を聞くことができます。
疑問や悩みが解決するヒントが見つかるかも？ お気軽にご相談ください！



報告書は
こちらから

「MeReal! YYmeeting」で山形の未来を話し合いました

令和6年9月8日に開催された「若者のオンライン対話事業『YYmeeting』」（主催 山形県／事業受託 シー・キヤド株式会社）で、約30名の若者たちが「山形の未来はこうなっていきたい」「こうなるといいな」と思っていることを話し合いました。

このイベントのグループセッションでは、やまがた学生情報局と共に若者サポーター5名が進行役を担当。話し始めると次から次へと意見が出てきて、盛り上がる場となりました。

「働き方」「県の取組み」「情報発信」「居場所」「チャレンジ」「ライフデザイン」についてのリアルな意見をまとめた報告書は、インターネットからPDFで見ることができます。ぜひご覧くださいね。

日本政策金融公庫山形支店主催「創業応援マルシェ」に協力しました

「創業応援マルシェ」に協力しました

日本政策金融公庫では、毎年全国的に「創業相談ウィーク」を展開しています。その中で山形支店では初の試みとして、令和6年12月7日に「創業応援マルシェ」を開催しました。（協力 やまがた実行委員会・若者支援コンシェルジュ事務局）

マルシェでは若者サポーター4名が相談対応とゲストトークを担当し、これまでの活動の経緯や大切にしていること、これから起業を考えている人へのメッセージなどを話しました。

トークの中では「縁を大切にしたい」「や「急ぎすぎないでタイミングを待つ」など、経験者ならではの大切なポイントが語られ、来場者だけでなく出展者の方々も耳を傾けていました。



現在37名の若者サポーターが登録しています

「地域を元気にする活動」をサポートする若者サポーターは、さまざまな専門性や特技を持った人たちの集まりです。“ちょっとだけ先輩”の経験者だから、背伸びせずに相談できると喜ばれています。あなたもちょこっと、相談してみませんか？電話または専用フォーム、LINE 等で気軽にお問い合わせください。（お問い合わせ先は11 ページをご覧ください）

やまがたの若者向け地域活動情報誌

発行 令和7年2月
発行部数 3,000 部

WA-CHA
5号

【制作・発行】

若者支援コンシェルジュ事務局
〒990-0832 山形市城西町 5-29-19
(AISOHO 株式会社)
☎080-4732-3804
✉concierge@aisoho.jp

【委託元】

山形県しあわせ子育て応援部
多様性・女性若者活躍課

若者向けの元氣応援窓口

若者支援コンシェルジュ

《編集後記》
やまがた学生情報局のお二人に話を聞いた中で印象に残ったのが、「山形は挑戦できる場所」という言葉でした。人口が少ないからこそ、自分が旗を振って、新しいことを始められる一方、そうした活動を受け入れてくれる地域がどうか大きくなってくると思っています。チャレンジに対して寛容な地域が育ってくれたら、もっと住みよい場所になるのかもかもしれません。（かいな）

推し活に熱心になってしまい、ここ数ヶ月くらいSNSに時間をかけ過ぎています。「推しは推せる時に推せ」とは言いますが、後悔しないような時間とそしてお金の使い方をしたいものです。（しばみ）

YYミーティングに参加して、まだまだコンシェルジュの認知度が低いなど痛感しました。まずは知っている人を増やすところから！（のん）

お仕事でもプライベートでもない「誰かのために何かをする時間」は、日常をカラフルにしてくれる…。最近やってみたいことがいくつかあってウズワズしています。（かすみ）